

< 議案について >

中西 大輔議員 (すずか倶楽部)

議案第63号、議案第66号に反対 その他議案は賛成

反対議案について、公務員給与の改定は全否定しないが、将来課題や政策課題の考慮、市民要望実現の財源確保が先と考える。平成29年度の独自財源は約23億円、10年前に比べ半減している。人件費は経常的経費であり、独自財源の減少で財政の余裕を縮小させ、政

策の選択肢を狭める。二役の財政運営に疑問がある。将来世代に向けた視点から考えて反対する。

賛成議案について、以下の意見を述べる。

第2療育センターの設置は必要だが、何年運用するのか説明がない状況は問題である。小中学校の光熱水費の増額から、予算計上や運用のあり方など検討が必要で、学校校舎の断熱や遮光、通風、網戸設置なども考えるべきである。

池上 茂樹議員 (公明党)

全議案に賛成

幼稚園費の空調設備整備費2,476万3,000円は、市立幼稚園9園で21の保育室に空調機を設置するためのもので、9月定例議会の討論でも早期の空調機設置について訴え、今定例議会の補正予算に盛り込まれたことは、早期の対応であり評価する。

次に、議案第64号 鈴鹿市手話言語条例の制定について、手話が言語の1つであるとの理解が深まり、広がることは大変喜ばしく思う。今後、手話を言語として市民に周知徹底するために、広報などに日常で使う簡単な手話を動画で解説できるようQRコードなどを掲載し、手話通訳の育成、拡充のための施策に取り組むことを求め賛成する。

今井 俊郎議員 (大志の会)

全議案に賛成

議案第63号、議案第66号について、以下の意見を述べる。

山積する政策課題を解決するための財源確保が求められており、今回の職員給与の引き上げにはいささか危機感のなさを感じる。固定資産税の償却資産を財源に充てるとのことだが、企業からの血税であり、本来は行政運

営への課題解決に使われるべきで、当初予算要求でカットされた事業に対して、復活予算として市民に還元されるべきである。

給与算定には人事考課制度を取り入れ、頑張っている職員を評価し、給与に反映することが、職員の業務に対するモチベーションを上げていくものと考え。人件費削減のためにおいても、給料、時間外勤務手当、地域手当などを精査することも求める。

森川 ヤスエ議員 (日本共産党)

全議案に賛成

以下の意見を述べる。

台風12号・21号の被害対応、近年の猛暑への対策、早期の対応を歓迎する。工事は、議会の意見を尊重し、地元企業優先を重視した事業発注を心掛けること。第2療育センター整備費を歓迎するとともに、5歳児健診の結

果報告を受け取る側に寄り添って丁寧に行うこと。本市の正規職員給与は県下一番に高い給与水準だが、非正規(臨時)職員の時間単価は非常に低く、賃金体系を正規職員と同様の県下一高水準に見直すよう提案する。正規市職員は、給与水準に見合う市民サービスを心掛けること。市長は、生活保護基準を市民の生活を守る立場から、2級地-1に改善するよう国に進言すること。